

平成 19 年 8 月

山 本 家 の 系 譜
と
江 戸 城 ・ 甲 賀 組

目 次

1	山 本 家 の 系 譜	1
1)	累 代 の 氏 名 ・ 戒 名	
2)	菩 提 寺 — 曹 洞 宗 龍 巖 寺 (東 京 都 澁 谷 区 神 宮 前 2 - 3) 初代よりの 累代墳墓	2
3)	江 戸 青 山 甲 賀 組 の 旧 跡 — 甲 賀 組 百 人 町 ・ 御 鉄 砲 場 、 麴 町 二 の 甲 賀 坂	
2	山 本 家 の 歴 史	3
1)	近 江 国 甲 賀 郡 の 甲 賀 衆 と 徳 川 家 康 と の 深 く 永 い 関 係	
2)	江 戸 城 警 固 の 甲 賀 ・ 伊 賀 ・ 根 来 の 忍 者 集 団	
3)	わ が 山 本 家 の 伝 承	4
4)	甲 賀 - 駿 河 - 江 戸 の 山 本 家	5
5)	幕 末 - 明 治 か ら の 先 祖 た ち	7
6)	結 言	

参考資料：

- 1 忍術 と 集 団
- 2 百 人 組
- 3 甲 賀 者
- 4 『忍びと忍術』 (江戸時代選書) 山口正之 雄山閣
甲賀組の起源と役目、江戸甲賀町の由来、甲賀忍者の名簿、大阪の陣と忍び組、
忍術の没落、甲賀流の末裔
- 5 『大江戸 復元図鑑 - 武士編』 笹間良彦 遊士館
- 6 『江戸古地図 - 忍者集団の跡』 二種よりの要約

以上



1 山本家の系譜

1) 山本家 累代の戒名・俗名

山本家：累代靈位 (位牌・墓誌ほか)

家紋：武日菱

菅洞宗龍墓寺

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 2-3

Tel. (03)3402-1016

2007 7.11

墓誌	戒名	俗名	命日
右面	無安是心 信士	不詳	1698 ^年 元禄 11.12.19
"	心光妙信 信女		1690 元禄 3.12.11
"	昌室妙○ 信女		1716 享保 元 9.19
左面	幻無 童女		1715 正徳 5.10.3
"	幻霜 童子		1727 享保 12.10.9
	自咄院道喜明居士	山本作次兵衛	1726 享保 11.10.20
	香林妙節 信女		1691 元禄 4.7.11
右面	秀岳宗栄 信士	山本源兵衛	1732 享保 17.6.17
	理性妙喜 信女		1738 元文 3.10.29
正面	景林惠好 信士	山本作次兵衛	1780 安永 9.10.17
"	顔室良桂 信女		1780 安永 9.7.16
"	(智明先浄智) 信士	山本幾右三門	1743 延享 元 6.22
右面	壽安妙長 信女		1760 宝暦 10.11.18
正面	義完良雄 信士	山本○太夫	1800 寛政 12.4.6
	円林妙覚 信女		1836 天保 7.1.25
	仁道義孝 信士	山本頼八郎	1848 嘉永 元.10.15
	寛光院泰岳魏山居士	山本興蔵	1865 慶応 元.12.20
左面	雪庭宗白 信女	スミ	1862 文久 2.11.2
	鶴敞院智岩玄性大姉	マサ(頼八郎妻)	1874 明治 7.7.5
	春空善 童女	貞(マサ・鑑三女)	1917 大正 6.1.17
	白尊院大豊清久居士	山本豊久	1917 大正 6.6.24
	直松院本空妙源大姉	セイ	1905 明治 38.5.16
左面	定性院良鑑道一居士	山本鑑一	1929 昭和 4.3.15(55才)
"	良徳院鑑室妙静大姉	ルコ	1946 昭和 21.9.27(65才)
別板	—	山本峰雄	1979 昭和 54.8.8(77才)
"	—	盛枝	2006 平成 18.11.15(98才)

基礎資料：

累代の墳墓（龍巖寺）	14	霊	正面と左右に刻銘
新設の墳墓（高崎観音山霊園）	2		山本峰雄・盛枝
伝来と山本峰雄の御位牌	8	基	22
筆写記録	4	枚	17 山本盛枝記

・ 最古の御先祖

被葬者は 心光妙信 信女（元禄 3 1690年）が最初で、墳墓創設者は 無安是心 信士（元禄 11 1698年）であろう。

龍巖寺のこの累代墳墓は、いわゆる「元禄墓」の典型である。

・ 龍巖寺墳墓に刻銘がない御先祖

山本作次兵衛（享保11 没）、頼八郎（嘉永元 没）、興藏（慶応元 没）、豊久（大正6 没）は、静岡などに墳墓がある。

・ 位牌の統合 — 平成19年7月2日・撥遣と入魂 は 瑞風院（杉並区）が実施。

伝来の御位牌（山本鑑一・しず以前）は、仏教の正しい慣習方式により

「山本家先祖代々之霊位」

として統合し、一基とした。

山本峰雄御位牌は、盛枝霊位と統合し、一基とした。

以上26霊位は『過去帳』を新設・記載して、二基の御位牌に添え、奉祀した。

二基の新しい統合御位牌 は、「全く強い霊威」あり、正確・適切であった。

2) 菩提寺

曹洞宗 龍巖寺 は、江戸甲賀組の拠点と居住地の地域にあり、墳墓は門内の東側にある。

3) 江戸 青山甲賀組 の旧跡

初期 麴町2丁目警察署付近 — 「甲賀坂」と山口正之は推測する。

中期以降 青山甲賀町 — 「百人町」・「御鉄砲場」・「龍巖寺」などの旧跡がある。

・ 青山甲賀組地域 の 新旧対比地図 を参照

* 「甲賀坂」・一番町の「五味坂」（ゴミ坂）は 光感寺坂＝甲賀坂とも呼ばれた。

・ 駿河台1-3丁目 YMCA前の坂も「甲賀坂」で、史蹟標識は撤去。

静岡からの甲賀組の跡とも思われる。

2 山本家の歴史

1) 近江国甲賀郡の甲賀衆 と徳川家康との深く永い関係

忍者集団の伊賀者・甲賀者は元来 同族、異名同流 で、室町時代末期～江戸時代初期に活躍した。

15世紀半頃、甲賀衆は53家が分立し、伊賀衆は服部・藤林・百地の同族三氏が統括していた。甲賀衆は、室町時代に近江国守護 六角氏の配下として合戦で活躍し、有名となった。六角氏の滅亡後、織田・豊臣に帰服したが、1565年 秀吉に知行地を取り上げられ追放され、秀吉の没後は徳川に味方した。

甲賀衆と徳川家康：

永禄 5年（1562）徳川家康の鶴殿長持討伐を甲賀衆が加勢し、殊遇された。

天正10年（1582）本能寺の変 と 家康の 伊賀越え

徳川家康は招かれて堺の視察中で、窮地無縁で三河に戻るとき、甲賀・伊賀の忍者たちが進んで守衛・援護して鈴鹿山系の難所を通過した。

「伊賀越え」（大和－山城笠置－伊賀柘植－鈴鹿）で、服部半蔵（二代正成）を組頭に伊賀衆200人が召し抱えられ、西の麴町御門を警固した。

天正18年（1590）徳川家康の関東移封により、警固体制が強化された。

慶長 5年（1600）関が原の戦で、家康側の伏見城籠城に甲賀衆が死守し、勲功をたてた。家康は、遺児などを召し抱え、甲賀組 の基盤となった。

－甲賀衆の多くは、江戸の鉄砲同心を嫌い、家康・秀忠・家光の関東移住に応じず、古風な意地を徹し、甲賀の郷土として没落した。

慶長 8年（1608）征夷大將軍 となり、江戸幕府を開設し、警固体制が拡充・強化された。

2) 江戸城警固の 甲賀・伊賀・根来の忍者集団

「百人組」として知られる警固体制はつぎのとおりで、甲賀組は本丸の 大手門、伊賀組は 大奥 を主として警固した。

警固体制：

甲賀組	慶長 2年（1597）	与力	20騎	鉄砲同心	100人
伊賀組	寛永10年（1633）		20		100
根来組	” （ ” ）		20		100
二十五騎組	” 9年（1632）	馬上同心・与力	25		100

本丸の正門が 大手三の門 で、大手門・下乗門・中の門（本丸の玄関）がある。
百人組番所 が 大手門の内外二ヶ所にあり、現在も 門の内側の番所だけ遺っている。
将軍が 寛永寺・増上寺 参詣のときは、正装で供奉し山門前を警備した。

甲賀組と屋敷跡：

甲賀坂（麴町） 初期の組と屋敷跡が 半蔵門近くにあったようで、甲賀坂 の
の地名が現在に遺っている。

麴町1番町の南、麴町2番町手前の警察署付近の坂道である。

天正18年（1590）家康の関東移封に、伊賀組200人に
与えられた土地で、甲賀組の地域の坂の地名だけ遺っている。

青山 甲賀町 甲賀百人町 の地名も 古地図 にある。

*『御府内備考』（徳川中期）

御炉路町の北、六道辻（明治神宮記念館）の南西

*『江戸地名集覧』（三村清三郎）

四谷の霞が丘町 （日本青年館の付近）

*『甲賀 大原家系図』

伏見城で戦死した篠山彦十郎の子 景末 は秀忠の勧誘で、江戸
青山甲賀町に移住して、弥次兵衛 と名乗った。

—江戸 古地図 のうち、幕末の青山の 甲賀百人町・百人組・御鉄砲場、
龍巖寺・善光寺などを詳細に示した 金鱗堂尾張屋 版 があり、添付した。
—現在の同地の地図と写真を編集して参考とした。 甲賀百人町・組屋敷は、
西の青山通りの表参道から東の外苑西通りまで長く続き、明治神宮外苑の地
に百人組と御鉄砲場があつて、じつに広大であつた。

青山通りのこの地域は、最先端のファッション街に変貌しつつある。

—伊賀組は、寛永12年（1635）に 麴町から四谷に移転し拡充した。

3) わが山本家 の伝承

* 山本峰雄 談

徳川家康が 本能寺の変 のとき、（堺からの）伊賀越 に甲賀衆が守護して
浜松城に帰還させた。

その功で甲賀衆が家康に仕え、江戸幕府で家康が二代秀忠に將軍職を譲り隠退し
駿河国に移ったとき、わが山本家の先祖の一部は親しく信頼されていたため、従っ
て移住した。

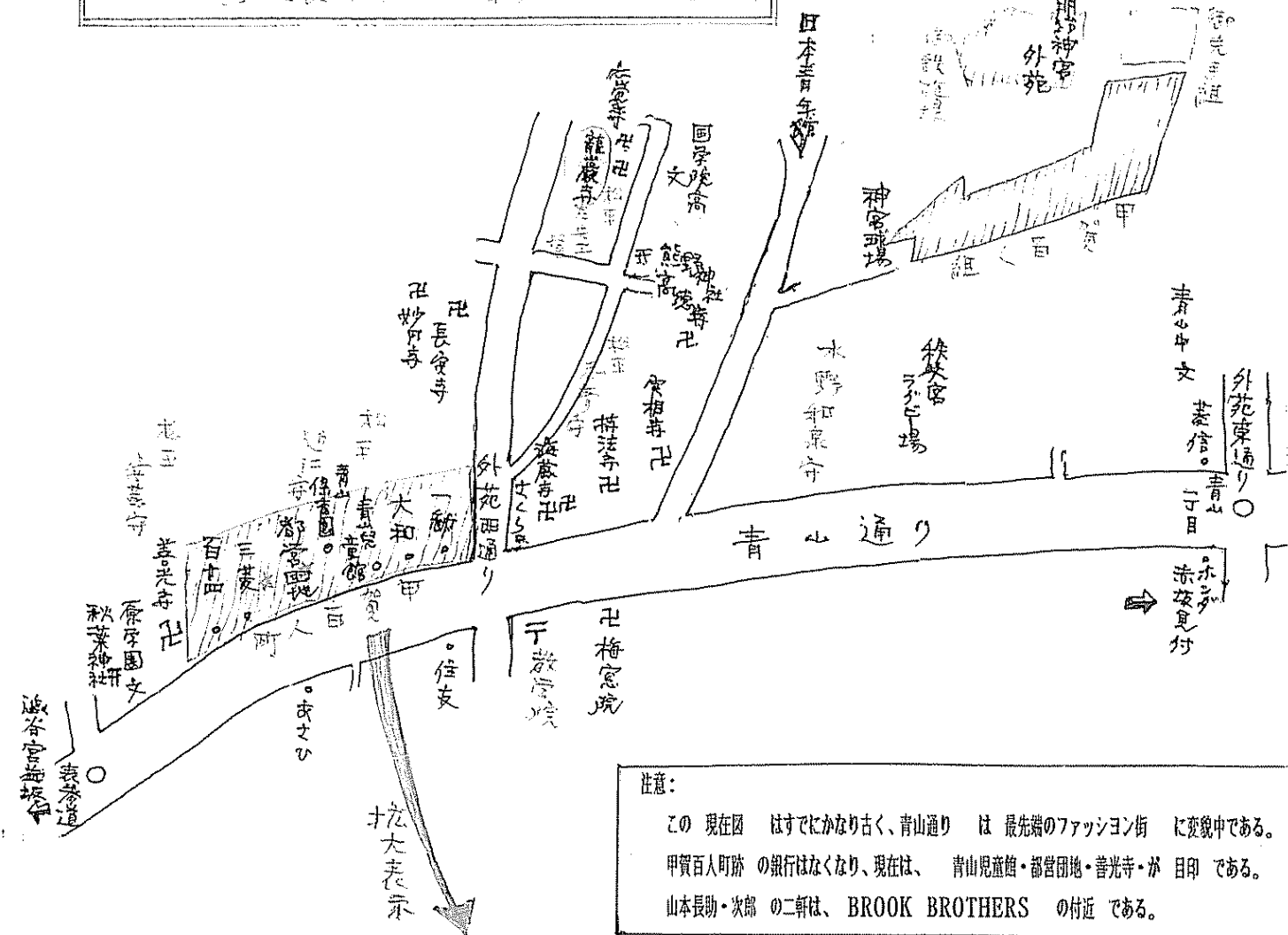
わが山本家の一部は、江戸城・甲賀組 で 旗本 であつた。

* 山本しず 談

江戸時代 青山に 旗本屋敷 があつた。

備考：忍術の巻き物などが、山本峰雄に伝わっていたが、百合が丘の住居で盗難にあ
い失われた。系図・家伝文書は伝えられた感触はない。

甲賀百人組
甲賀百人町 東京都港区北青山三丁目
 正徳六年 (1853年) 全編 10巻
 文政四年 (1821年) 全編 10巻



注意:
 この 現在図 はすでにかなり古く、青山通り は 最先端のファッション街 に変貌中である。
 甲賀百人町跡 の銀行はなくなり、現在は、 青山児童館・都営団地・善光寺・が 目印 である。
 山本長助・次郎 の二軒は、BROOK BROTHERS の付近 である。

- 甲賀百人町 氏名 20名 (東から西へ順)
- 蔵宗 原 栗
 - 佐々木 孫四郎
 - 荒井 忠之丞
 - 林 繁右衛門
 - 吉川 光 蔵
 - 塩原 鉄太郎
 - 高島 元次郎
 - 武内 七右衛門
 - 山本 長助
 - 村越 与四郎
 - 村瀬 甚五郎
 - 中西 卓次
 - 山本 公郎
 - 大石 貞次郎
 - 武藤 伝右衛門
 - 桜井 全次郎
 - 鈴木 豊助
 - 川口 丁之丞
 - 幸野 喜三郎
 - 北沢 恒太郎

東都青山繪圖



- 御紋御上屋敷
- 御中屋敷
- 御下屋敷
- 神社佛閣
- 町家
- 道路・橋
- 堀川
- 山林土手
- 馬場植溜等



百人町。若年寄支配下の下級武士の粗屋敷。家計が苦しかったので、傘張りなどの内職が多かった。

小島勲次郎。この離れに高野長英が潜伏。沢三伯と名乗って医業を営んでいたが、捕吏に囲まれて自決した。

長谷丸。黄金長者の居住地という伝説地。南側の秋月左渡守の所には、歌人の高藤茂吉が経営する青山脳病院があった。

松平左京大夫。定府大名の伊予西条藩士屋敷。現在は青山学院大の構内。

長谷寺。越前永平寺の東京別院。洋画家黒田清輝、政治家井上馨、喜劇俳優工ノケン、歌手坂本九らの墓がある。

青山大膳亮。美濃郡上藩青山家の下屋敷。現在は青山霊園で、明治天皇に殉じた乃木格典夫妻ら、著名人の墓が多い。

伊達達江守。宇和島藩伊達家の上屋敷。幕末の藩主宗城は「幕末四賢侯」と称された名君の一人。

龍巖寺 青山:菩提寺 - 元禄から累代



熊野神社





なかに 善光寺、青山児童館 あり。 山本二氏 あとは BROOK BROTHERS のあたり。





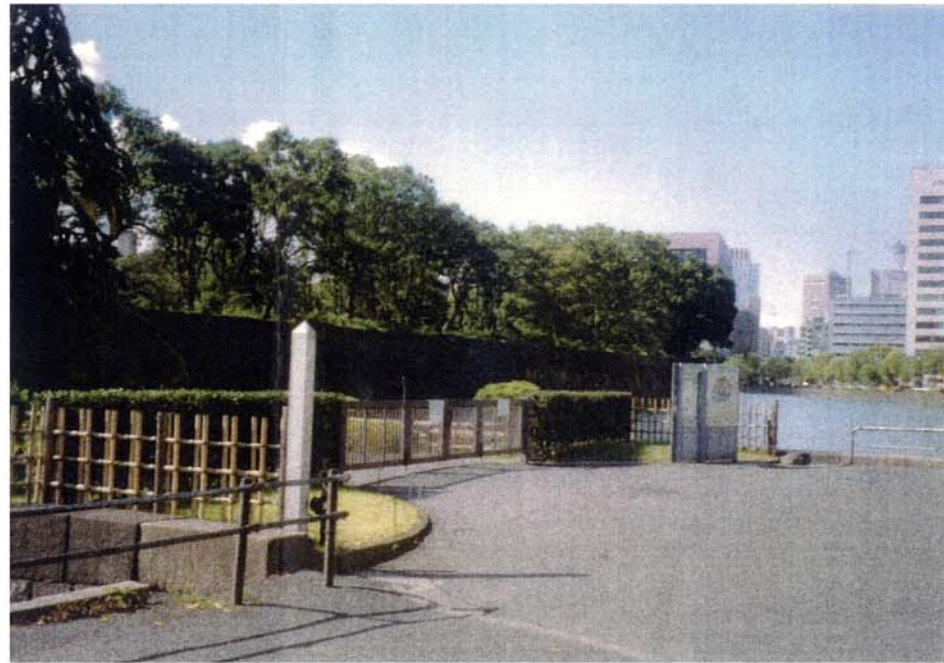
半蔵門の甲賀坂 ... 北側の五味坂の由緒



大手門 ... 江戸城の正面警固



明治絵画館の手前 ... 甲賀組の組頭・旗本と同心100人、御鉄砲場



4) 甲賀-駿河-江戸 の 山本家

近江国甲賀郡 の 山本家 は、甲賀衆 53家のうち有力 21家になく、土地・財力・権勢は中位であったろう。伊賀越 の勲功で徳川家康以来 駿河や江戸 での奉職を勧められても固く従わなかったが、山本家の一部が応じて駿河や江戸に移住した。

徳川家康と甲賀衆、江戸城警固、わが山本家の口伝、甲賀坂、青山の甲賀町と龍巖寺家系と累代墳墓などを調べたので要説する。

・ 徳川将軍 と 山本家

-山本家 の 先祖たち-

初代	家康	1603-1605年		
		1582	伊賀越	甲賀衆の山本家も参加した(口伝)
		1590	関東移封	山本家一部が駿河と江戸へ
		1600	伏見籠城	勲功後、山本家も駿河と江戸へ ?
		1608	江戸幕府	江戸城 甲賀組: 麴町門 の警固
2代	秀忠	1605-1623	家康隠退	親しく信頼の山本家一部が従い駿河
3代	家光	1623-1651		に移住して仕えた。
4代	家綱	1651-1680	-----	青山・龍巖寺墳墓(初代)
5代	綱吉	1680-1709		無安是心信士 1698没 元禄
6代	家宣	1709-1712		
7代	家継	1712-1716		
8代	吉宗	1716-1745		作次兵衛* 1726没 享保 源兵衛 1732没 享保 幾右之門 1743没 延享
9代	家重	1745-1760		
10代	家治	1760-1786		作次兵衛 1780没 安永
11代	家斎	1786-1837		○太夫 ? 1800没 寛政
12代	家慶	1837-1853		頼八郎* 1848没 嘉永
13代	家定	1853-1858		
14代	家茂	1858-1866		興 蔵* 1865没 慶応
15代	慶喜	1866-1867		

*印 墳墓は龍巖寺になく静岡にある。

・考察

(1) 本能寺の変・家康の 伊賀越 援護から江戸城・甲賀組まで

危機の伊賀越で殊勲の甲賀・伊賀集団に感謝と信頼が厚く、伏見籠城で甲賀衆の評価と信頼がさらに深まった。甲賀53家が嫌った 駿河→江戸 移住の勤務を引き受けた 山本家 は、一族郎党を率いて 駿河と江戸 で活躍した。

甲賀衆は 忠実、知略、武勇 に優れ、江戸城警固で天守閣に近い 大手門を主とし、家康は將軍職を秀忠に譲り隠退のとき、親しく信頼していた 甲賀衆と駿河に移ったのであり、実にわが 山本家の先祖 であった。

以上で、甲賀を離れた 山本家、駿河と江戸の移住者と情況、隠退で駿河に移った山本家と居住地などの史実を調べる文献には、遺憾ながら恵まれない。

→甲賀市、静岡市、江戸史の古文書、研究報告、実地調査、徳川家康の詳細研究史料などによりかなり解明できようが、大火や戦災が重なり至難・徒労と感ぜられる。

(2) 江戸城・甲賀組 の先祖たち

山本家の江戸城警固は、服部半蔵の 麴町門警固 に その付近に居住し勤務していた。現地は、半蔵門西側の警察署裏あたりで 甲賀坂 の地名が遺っているが、変貌著しく、江戸初期の 古地図 もないようで実態は分からない。

わが山本家の 青山・龍巖寺 累代墳墓の初代 無安是心信士(1698没) は 家綱→綱吉 元禄 の人で、甲賀組 旗本 として 与力 20騎・同心 鉄砲100人を率いたとみたい。隠密、忍術の実践などではなく、戦乱の場合御先手組、伊賀組、根来組、二十五騎組、諸藩武士たちと戦う戦闘指揮官であった。俗名は分からない。先代以前から江戸にいて、晩年夫人の死去で墳墓を開設したようである。

家柄・格式から、旗本 を世襲し、○太夫?(1800没)あたりは 組頭 となったと思われ、明治神宮外苑の地で 甲賀組鉄砲隊と組頭・旗本の屋敷に起居し統率したとみたい。青山通りの 百人町 は馬と従者と暮らす 与力 20人の屋敷であった。

幕末 14代 家茂 の頃、山本興蔵(1865没)は 組頭であったと思われるが、江戸 古地図(1855頃)の 青山 甲賀百人町 の 与力住居 に 山本長助 と 山本次郎 の名が記されており、同族とみたい。

勤務と居住は 江戸・青山 であったが、作次兵衛(初代)、頼八郎、興蔵 および豊久は、墳墓は青山・龍巖寺になく 静岡市にあることから、勤務は江戸

で故郷は駿河 ー という関係が推測される。

5) 幕末ー明治からの先祖たち

山本頼八郎・まさ、山本興蔵および山本豊久は、静岡市 で出生し墳墓がある。

山本鑑一は、静岡市で出生し豊久を嗣いだ。後年、栃木県足尾銅山の現場技師となり住居は東京市牛込区若松町35であった。

子供たちは、転勤により出生地が異なっている。

静岡市新通大工町 ー 峰雄、茂雄

栃木県足尾町 ー ヤエ

東京市牛込区若松町 ー ヨシ子、貞（みさを）、久子、英雄

幕末で 徳川時代は終わり、王政復古の明治維新を迎えた。

忍者集団による 江戸城警固の甲賀組は解体し、「將軍の江戸城」は「天皇の宮城」に変わり、近衛師団 ー 皇宮警察 が警固する時代となった。

ー 忍者集団は、大名がいない山地で集団が連携し、戦乱の世に他藩勢力の侵攻に対処して、戦略・戦術、情報・謀略、設備・武器、知謀と心理、敏捷な行動と強靱な体力に精励し、甲賀衆と伊賀衆は一体で対処した。兵法に山岳修験道術も採り入れた。

甲賀衆は、真摯、知略、武勇、忠実、武士道精神で 徳川家康から信頼された。

忍者屋敷の知略をつくした特殊構造、吹き矢、手裏剣、火薬、毒薬、治療薬、変装心理作戦などは、現地の資料館で実感でき、今も製薬産業が栄えている。

山本鑑一 は銅山の現場技師となったが、採鉱では精密に爆薬を使用する。

山本峰雄 は帝大 航空研究所 助教授で 航研機の主翼・脚などの構造設計、軍用機設計に関与、戦後はヘリ、自動車の構造・性能などを指導し多大の貢献をし、自動車殿堂 入りした。宮城で昭和天皇より叙勲された。

山本茂雄 は、昭和天皇の侍従として親しく信用され、宮内庁の車馬課長も勤めた。江戸城の徳川家康と甲賀組 対 宮城の昭和天皇の侍従 と 似ている。

山本英雄 は陸軍中野学校出身で、陸軍と警察庁の諜報・暗号の専門家であった。

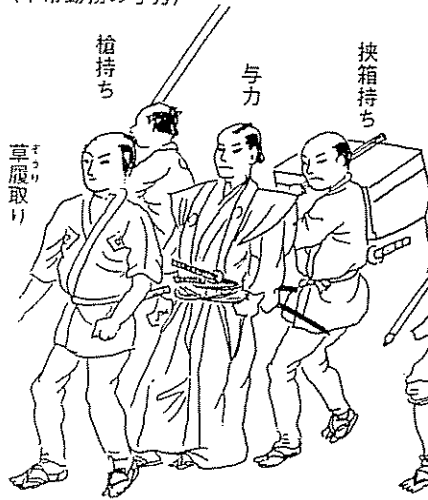
ー これらは、甲賀忍者集団 の 知略、技術、特技などに通ずる仕事の分野であり、家系の奇縁を想わされよう。

6) 結 言

わが山本家は、甲賀衆の後裔であり、江戸城・甲賀組 幹部の家系である。

麴町ー青山 甲賀組屋敷跡、龍巖寺近辺、系譜と累代先祖の霊位などを併せて調査し記録して、顕彰と敬意の徴と致したい。 合掌

〈平常勤務の与力〉



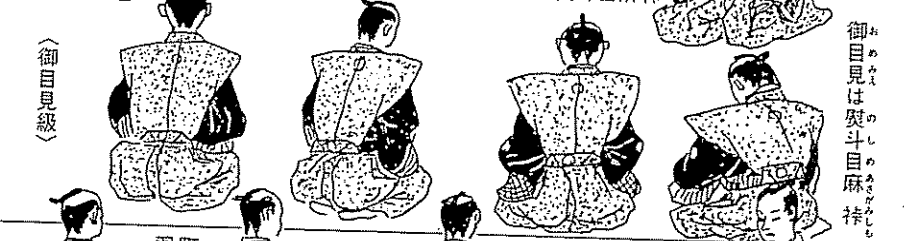
〈戦時中の与力〉



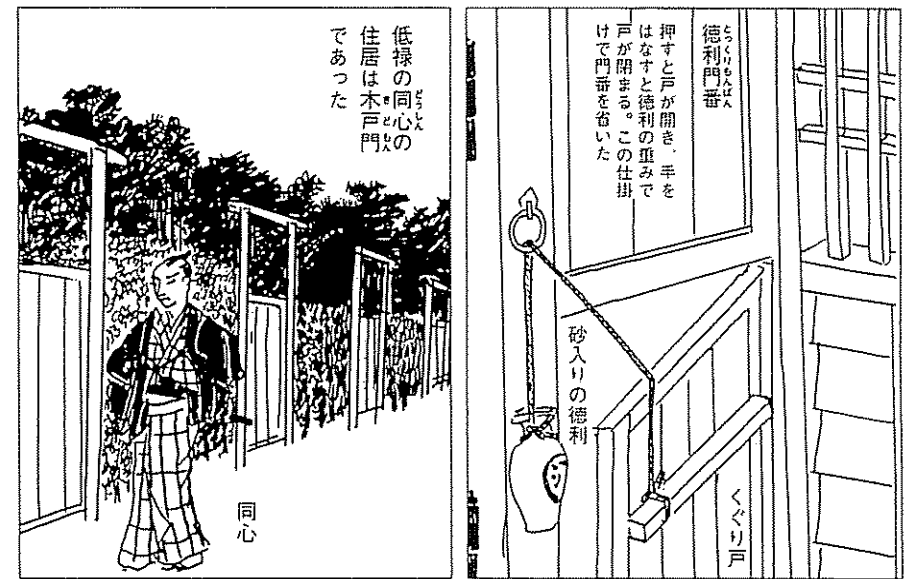
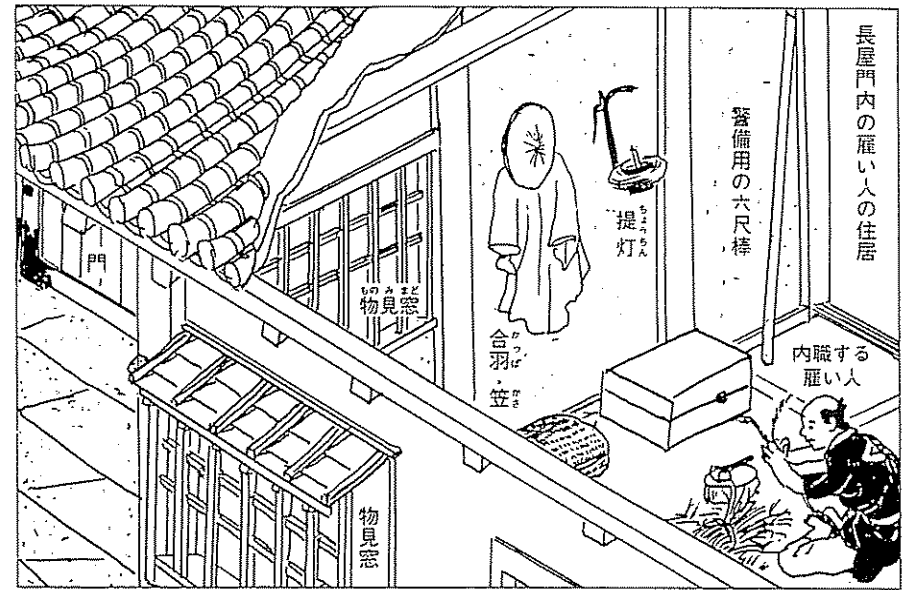
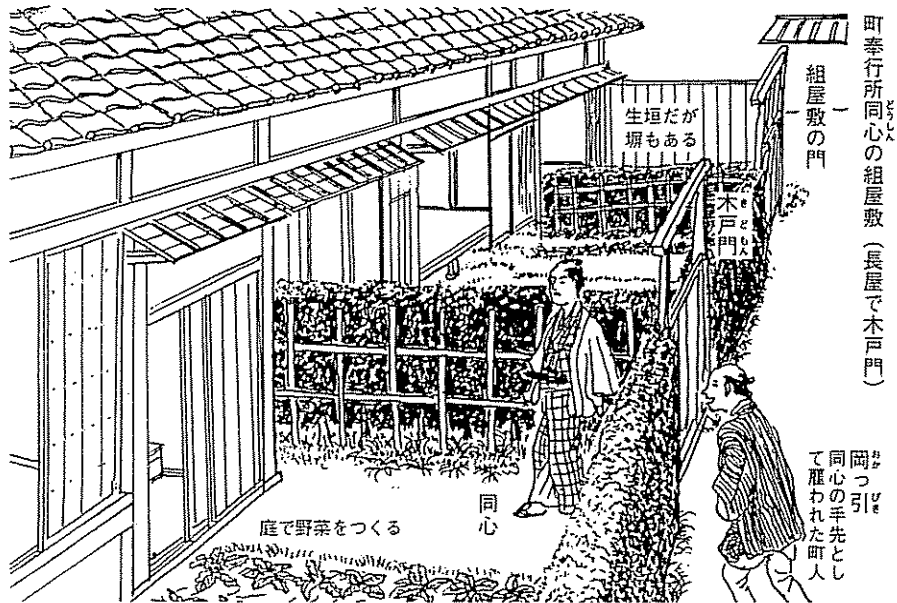
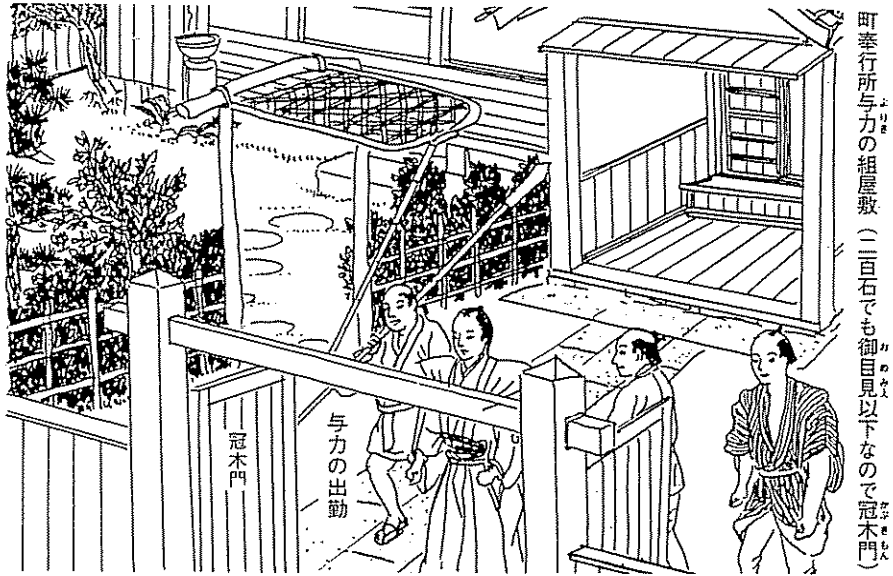
〈平常勤務の同心〉

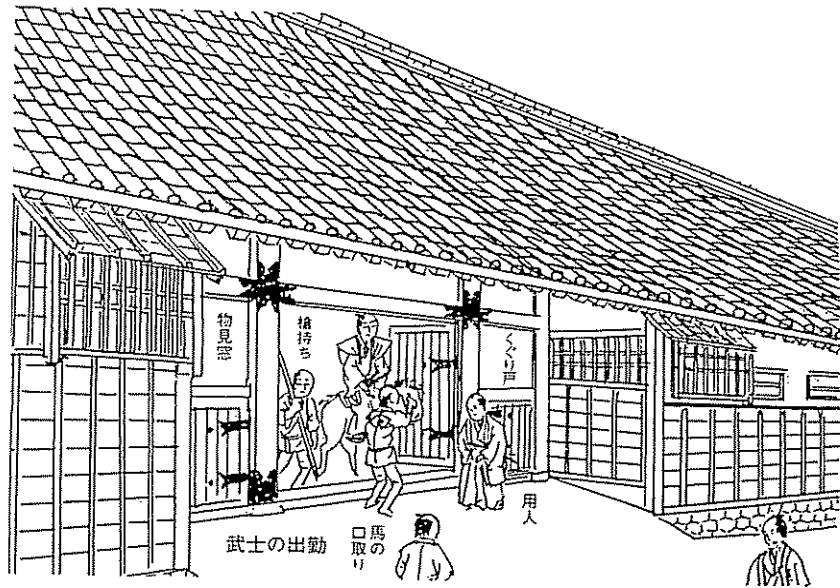


〈戦時中の同心〉

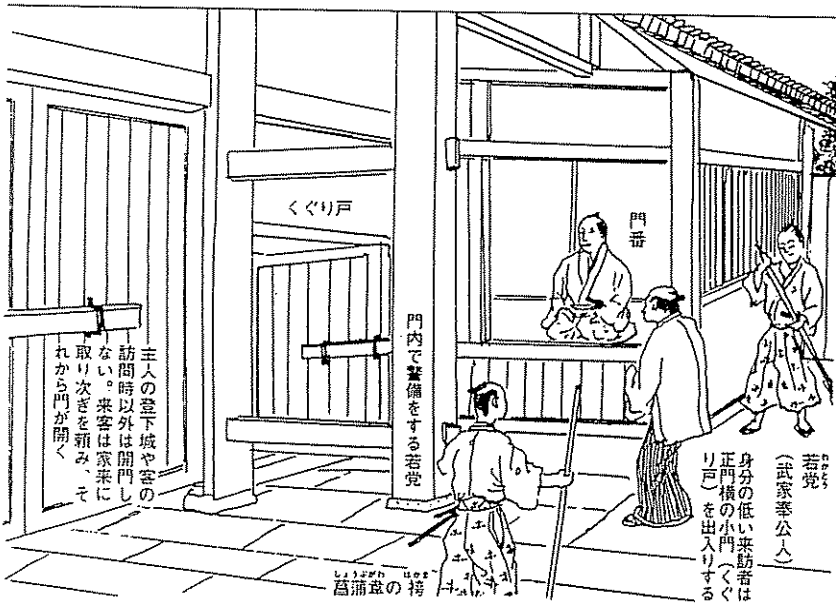


徳川幕府 著画 大江戸復興元 鑑一 武士編 遊子館

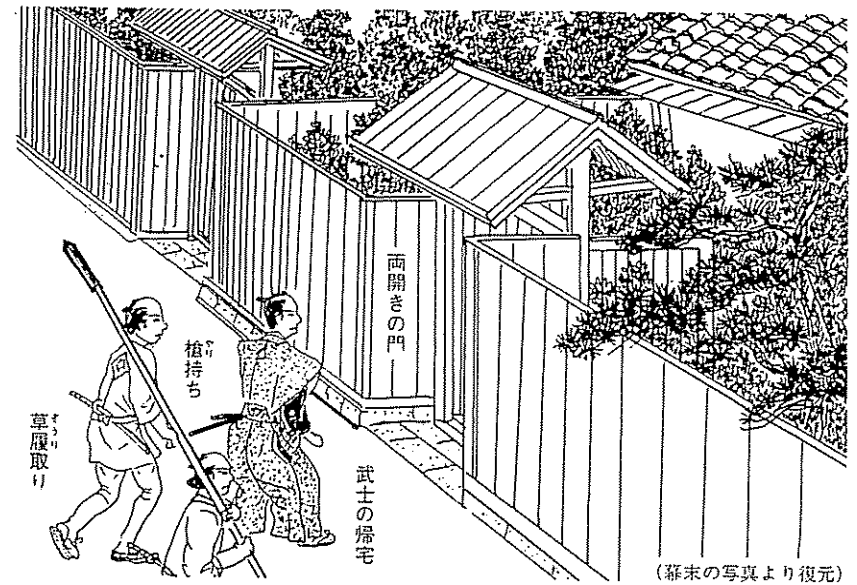




六百石級で御目見の長屋門 (幕末の写真より復元)

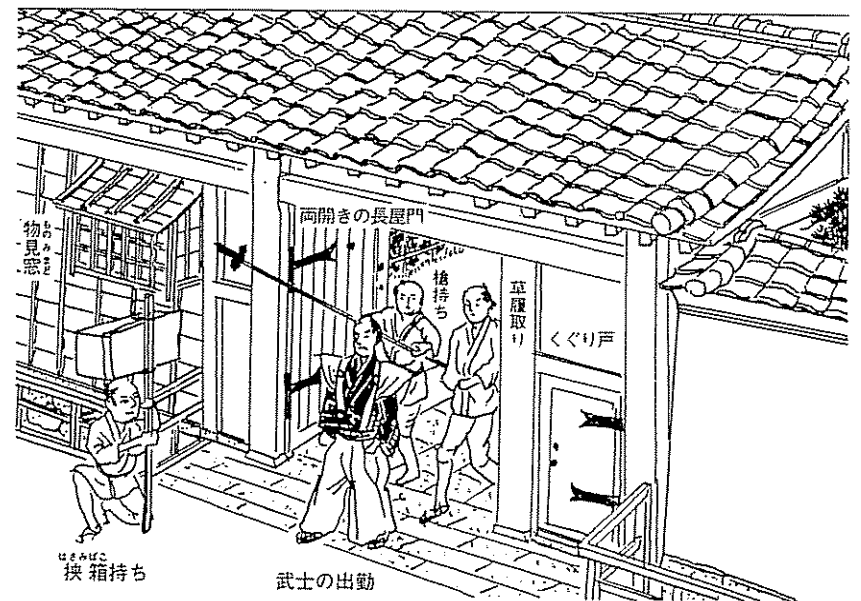


六百石級で御目見の長屋門の内側

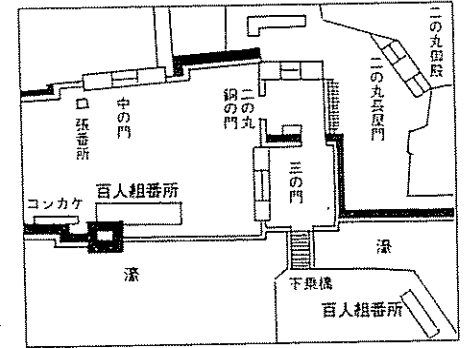
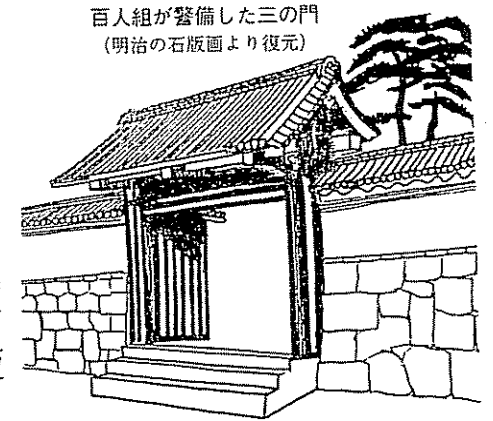
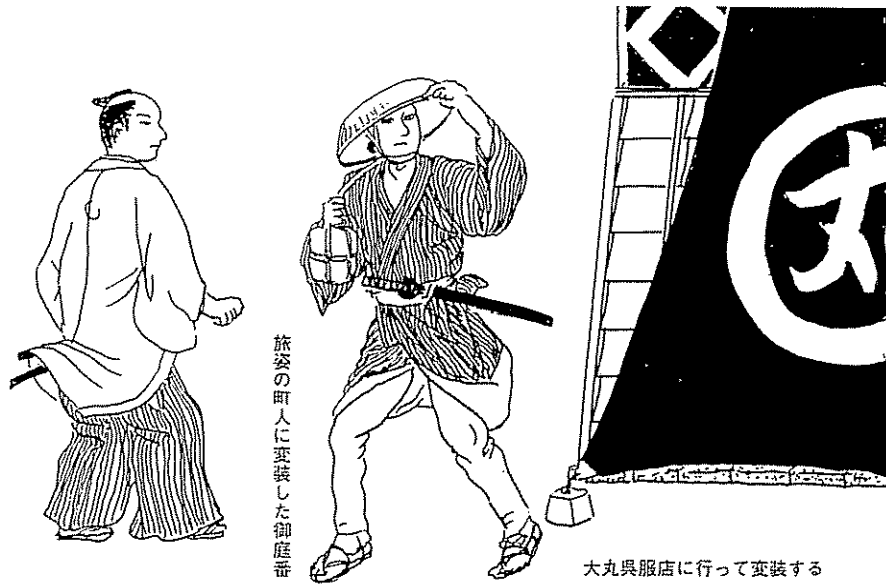


百石級で御目見の小十人組の門構え (冠木門の一種)

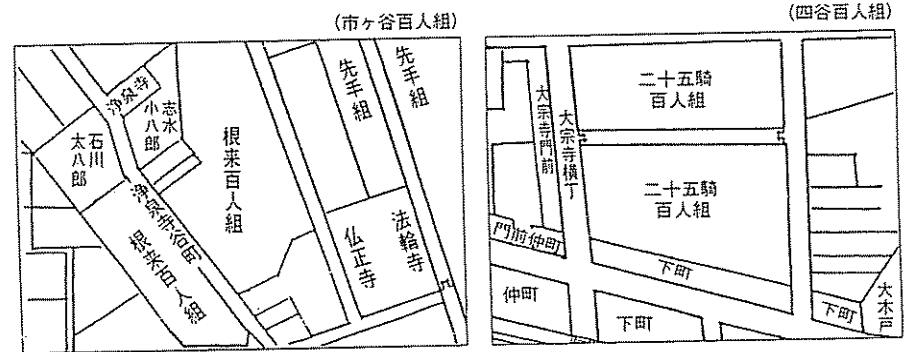
(幕末の写真より復元)



二百石級で御目見の長屋門 (四谷塩町にあった屋敷)

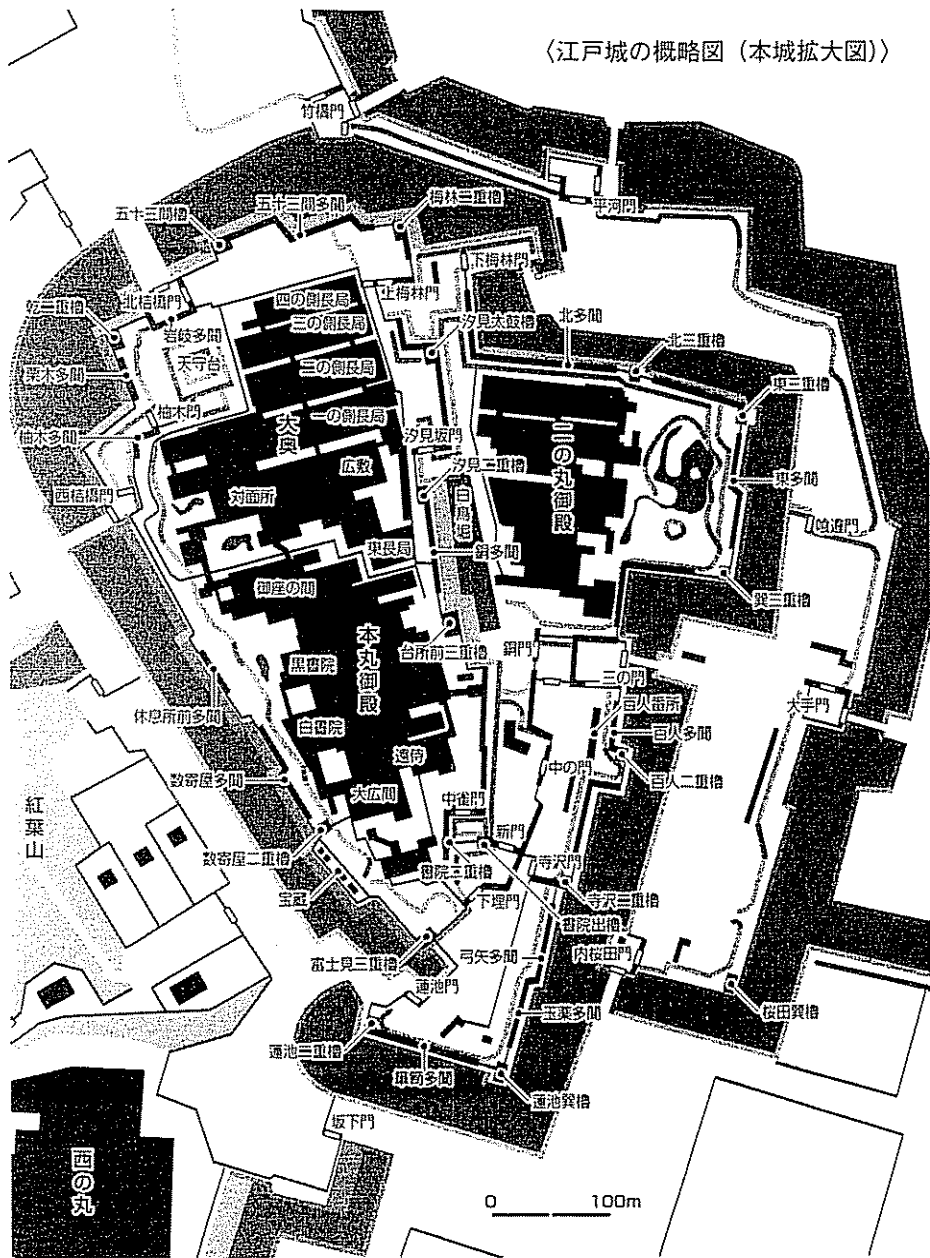


百人組番所と中の門、二の門の位置図

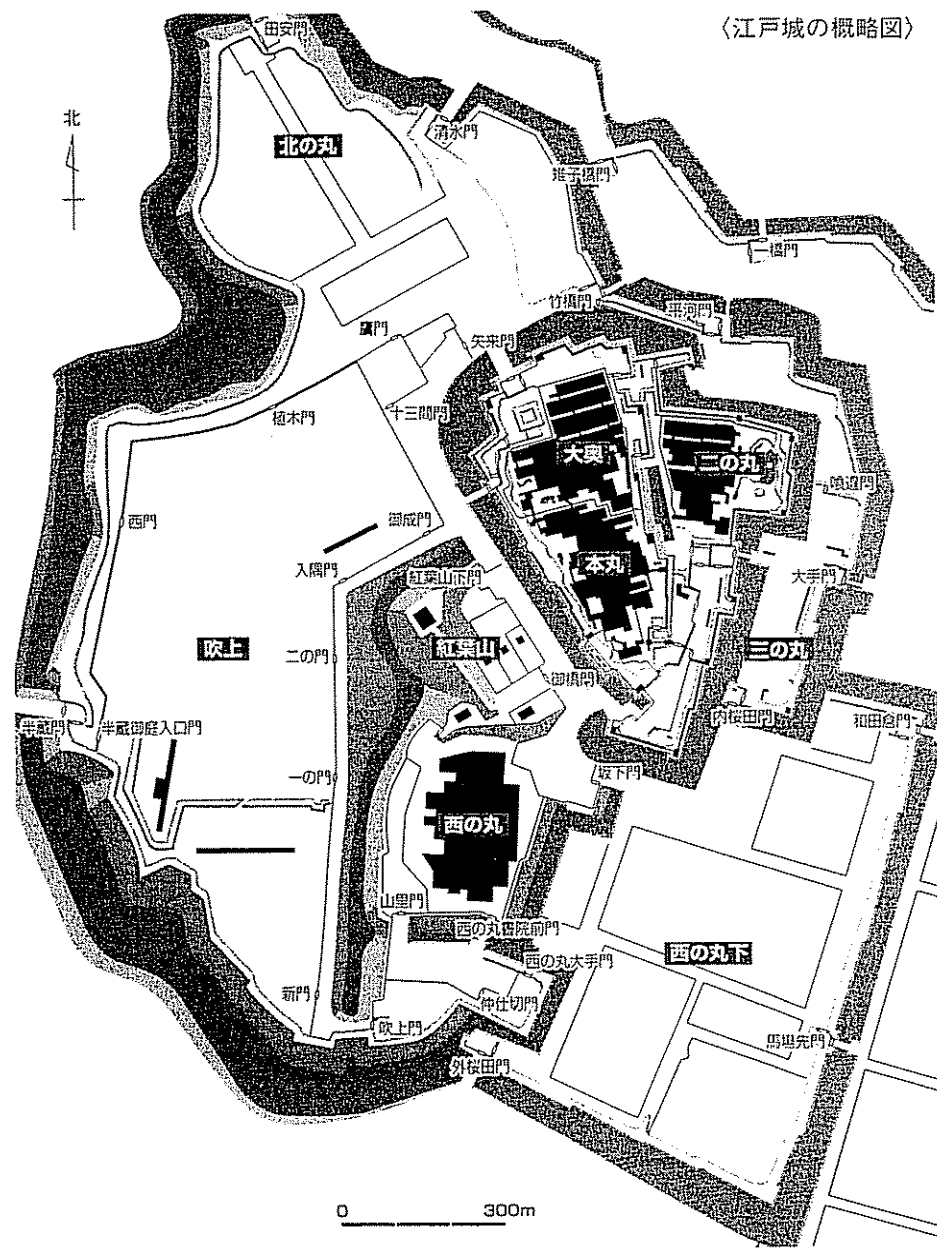


鉄砲百人組組屋敷の位置図 (『江戸切絵図』より)

〈江戸城の概略図 (本城拡大図)〉



〈江戸城の概略図〉



(日本盛枝記)

享保十一年 (1726)年

自昭院道喜日明居士

十月二十日

俗名山平作次兵衛

文祿四年 (1691)年

番林妙節信也

七月十日

京保十七年 (1702)年

秀岳宗采信士

六月十七日

俗名山平源兵衛

元文三年 (1738)年

理惟妙喜信女

十月二十九日

享保九年 (1780)年

景原惠好信士

十月十七日

俗名山平作次兵衛

安永九年 (1780) 年

坂軍良程佳女

七月十六日

延享三年 (1749) 年

智庵勇敏信士

六月二十二日

俗名 山平 叔石之介

宝曆十一年 (1760) 年

壽安妙長信女

十一月十一日

寛政十二年 (1800) 年

義完良雄信士

四月六日

俗名 山平 亮 不斐 夫

天保七年 (1836) 年

圓杯妙實信女

正月二十三日

嘉永元年 (1848) 年

仁道義村孝信士

十月十三日

俗名 山平 頼八郎

慶應元年 (1865)年

寛光院泰然親心居士

十二月二十日

俗名 心平興藏

文久二年 (1862)年

雪庭宗種信女

十一月二日

俗名 心平又三

明治七年 (1874)年

鶴淑院慧岩玄悦姉

七年五月

俗名 心平マサ

明治廿八年 (1905)年

平空妙深信女

五月十一日

俗名 心平巴一
曲直久喜

明治三十二年 (1919)年

春容善童女位

俗名 心平貞子

天正六年

(1919年)

自導院大豐清久居士

首三書

備名山平豐久